旭川大雪エリア
住民満足度調査 2025
報告書
（分析編）

（一社）大雪カムイミンタラ DMO

■分析について

本分析は、「旭川大雪エリア住民満足度調査 2025」を基にした分析であり、別紙のデータ編と合わせて確認頂くことを前提としている。本分析においては、サンプル数不足により調査した全ての市町や項目についてそれぞれ細かく分析することが難しい部分があったため、項目によって分析の深度や記述の分量に濃淡が生じている点につき、あらかじめご了承いただきたい。

■目次

Ⅰ　年代別分析

Ⅱ　性別分析

Ⅲ　居住地別分析

Ⅳ　居住地別詳細分析

Ⅴ　職業別分析

Ⅵ　自由記述分析

Ⅶ　総評

Ⅰ．年代別分析

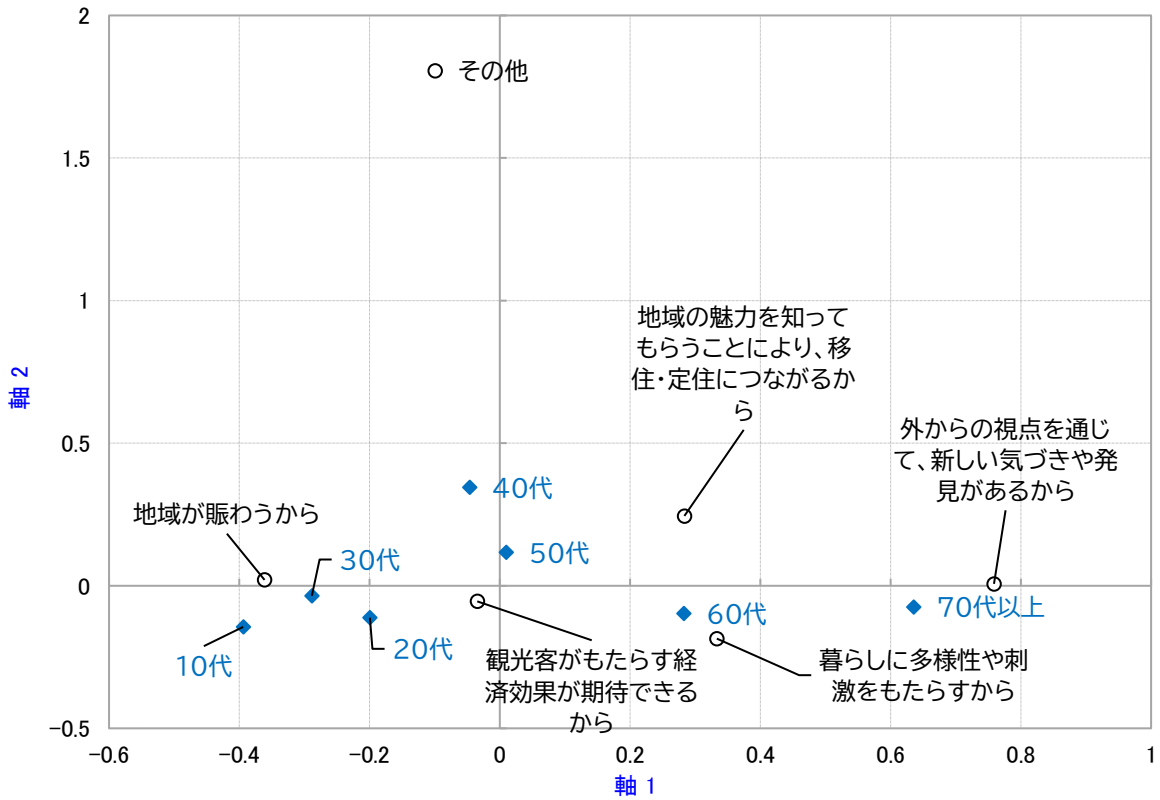
若者（10-20 代）の「楽しみたい」エネルギーと、シニア（60 代）の「地域を元気にしたい」意欲が高い。
逆に、働き盛りの 30-50 代が最も生活実感をシビアに持っており、この層に対して「観光がいかに生活インフラ（除雪、道路、店）の維持に役立っているか」を示すことが、地域の合意形成において重要である。

■20 代・30 代
新しいイベントや施設の提案が多く、変化を求める傾向がみられる。観光客受け入れには肯定的であるが、自分たちが楽しめるコンテンツ不足を感じている。
■40 代・50 代
現実的な視点（交通インフラ、二次交通、医療）での意見が目立つ。子供の教育や将来の定住を見据えた意見が多いのが特徴。
■60 代以上
「自然保護」「治安」「マナー」を重視する傾向が強い。観光客増による静穏な環境の喪失を懸念する声が相対的に高くなっている。

年代	是非	出来れば	肯定計	否定計	傾向・分析
10 代	33.3%	66.7%	100%	0%	**【純粋な楽しみへの渇望】**拒否感ゼロ。「遊ぶ場所が欲しい」「賑やかな場所に行きたい」という純粋なニーズ。
20 代	42%	50%	92.9%	7.1%	**【変化を求める積極層】**「是非来てほしい」が全年代で最も高い。新しいイベントやフェスなど、変化や刺激を最も肯定的に捉えている。
30 代	34.1%	53.7%	87.8%	12.2%	**【子育て世代の期待と不安】**子供が遊べる施設を望む一方、治安や交通安全への懸念から、少し慎重な姿勢（否定派12%）も見え始める。
40 代	32%	55.7%	87.7%	12.3%	**【生活負荷に敏感な現役層】**仕事や送迎で多忙なため、渋滞や混雑が「生活の阻害要因」になりやすい。経済効果に

					は理解を示すが、手放しではない。
50 代	31.6%	55.6%	87.2%	12.9%	**【リアリスト(現実主義)】** 地域の衰退と活性化の両面を熟知しており、冷静。「マナーを守るなら歓迎」という条件付きの意見が多い。
60 代	32.8%	56.3%	89.1%	11%	**【地域活動の担い手】** 現役世代(30-50 代)よりも肯定率が高いのが特徴。退職後の地域貢献や交流に意欲的で、ボランティア等の戦力になり得る。
70 代以上	38.9%	44.4%	83.3%	16.7%	**【二極化するシニア】** 「是非」も高いが、「否定派」も全年代で最多。賑わいを喜ぶ層と、変化やリスク(感染症・治安)を嫌う層がはっきり分かれる。

■コレスポンデンス分析



Ⅱ. 性別分析

性別	是非来てほしい	出来れば来てほしい	肯定派 合計	否定派 合計	全体傾向
男性	36.9%	52%	88.9%	11.1%	【積極・牽引型】「是非」の割合が高く、経済活性化への期待が強い
女性	29.5%	58.8%	88.3%	11.7%	【堅実・協調型】「出来れば」が約 6 割。生活環境との調和を重視する慎重な歓迎姿勢

分野	男性向け（Active & Hard）	女性向け（Relax & Soft）
キーワード	「経済効果」「新・交通システム」「アドベンチャー」「夜の熱気」	「キレイなトイレ」「安心・安全」「地産地消ランチ」「癒やしの風景」
需要ポイント	二次交通（ライドシェア）、Wi-Fi 環境、サウナ、バー	パウダールーム、キッズスペース、カフェ、散策路
合意形成のポイント	「観光がいかに稼げるか」を数字で示す	「観光がいかに暮らしを豊か・便利にするか」を示す
役割	【エンジン】 インフラ整備やイベント誘致などの「大きな枠組み」作りには、男性層の推進力が活かされる	【ハンドル】 その観光地が「持続可能で快適か」という「質」の管理には、女性層の厳しい目線と感性が活かされる

① 【男性】の分析
～ ハード整備と経済・エンタメ ～

インフラ（道路・交通）や経済効果、そして能動的なアクティビティに関するものが中心となっている。

■特徴と傾向

「地域経済の活性化」「人口減少対策」「交通網の整備」など、社会全体やハードウェアに関する意見が多く見られる。自身が楽しみたいこととして「サウナ」「スキー」「飲み歩き（ナイトライフ）」など、具体的な行動・体験への言及が目立つ。

■主な意見

「旭川空港の滑走路延長や、国際便の就航をもっと強力に進めるべき」
「市内中心部と観光地を結ぶシャトルバスや、ライドシェアの解禁が必要」
「道路の渋滞対策を先にしないと、住民生活が麻痺する（除雪問題含む）」
「サンロク街（繁華街）をもっと健全かつ活気ある場所にリニューアルしたい」
「夜景を見ながらお酒が飲めるバーや、大人の社交場が欲しい」
「音楽フェスやスポーツ大会など、人を大量に呼べるビッグイベントの誘致を」

■分析

男性層は「変化とインパクト」を求めており、「経済波及効果」や「新技術（ライドシェア等）の導入」など、論理的かつ先進的な施策を提示することで、強力な推進サポーターとなる。

② 【女性】の分析
～ ソフト環境と安心・暮らし ～

清潔さ、安全性、子供、そして「雰囲気（情緒）」に関するものが中心。

■特徴と傾向

「トイレの綺麗さ」「歩道の歩きやすさ」「治安」など、実際にそこで過ごす際の快適性を厳しくチェックしています。「おしゃれなカフェ」「写真映えする風景」「美味しいスイーツ」など、誰かと共有したくなる情緒的な価値を重視します。

■主な意見

「観光地のトイレが古くて汚い。女性や子供が安心して使えるトイレを増やして」
「授乳室やおむつ替えスペースが少なすぎる」
「夜道が暗くて怖い。街灯を LED 化して明るくしてほしい」
「地元の食材を使った、体に優しいランチができるカフェが欲しい」
「ただ見るだけでなく、ハーブ園やアロマなど、癒やされる体験がしたい」
「観光客が住宅街に入り込むのが不安。子供の通学路は守ってほしい」

■分析

女性層は「質と安心」を求めており、大規模な開発よりも「トイレの洋式化・美装化」や「ベビーカーで移動しやすいルート案内」など、きめ細やかな環境整備（ソフトインフラ）を行うことが、結果として観光客（特にファミリー層）の満足度を高め、女性住民の支持も得られると思われる。

Ⅲ. 居住地別分析

住民の観光客受け入れに対する意識(「是非来てほしい」「出来れば来てほしい」の合計)は全体的に高い傾向にあるが、住民の「観光客受け入れ意向(是非来てほしい＋出来れば来てほしい)」を高い順に並べると居住地によって温度差が見られる。

■積極派(美瑛町・上川町など)
「非常に愛着をもっている」「是非来てほしい」という回答の割合が高い傾向がある。観光が地域経済の柱であるという認識が強く、外からの視点を歓迎している傾向がみられる。

■慎重派(東川町など)
移住者も多く活気がある一方で、「オーバーツーリズム(混雑・マナー)」への懸念から、「手放しで歓迎」ではなく「条件付き(マナーを守るなら)」や「現状維持」を望む声が散見される。
データ傾向としては観光客受入に対して「出来れば来てほしい」が多く、「是非来てほしい」が他町よりやや低い、または懸念コメントとの相関が見られる。

居住地	是非	出来れば	肯定計	否定計	傾向・分析
上川町	66.7%	33.3%	100%	0%	**【観光立国の最前線】** 拒否感ゼロ。層雲峡など観光が生活の糧であり、「外から人が来るのは当たり前」という強い当事者意識がある。
美瑛町	52.6%	42.1%	94.7%	5.3%	**【経済依存と現場の疲弊】** 「是非」が過半数を超え、経済効果への期待は最大。一方で現場レベルではマナー違反への疲労感も見え隠れする。
東神楽町	42.9%	50%	92.9%	7.1%	**【空港・都市型の開放性】** 空港や大型商業施設があり、人の出入りに慣れている。都市的な利便性とセットで観光を捉えている。
比布町	40%	50%	90%	10%	**【ウェルカムなスキーの町】** スキー場や温泉が日常にあり、外来客への抵抗感が少ない。「楽しんでいって」というホスピタリティが高い。

当麻町	33.3%	55.6%	88.9%	11.1%	**【穏やかなファミリー観光】** キャンプ場などの施設が明確。「是非」より「出来れば」が多く、暮らしを乱さない範囲での観光を望む。
旭川市	33.3%	55.6%	88.9%	11.1%	**【生活と観光のジレンマ】** 全体的に好意的だが、バス混雑や渋滞などの「実害」を感じる層が約１割存在。都市機能維持とのバランス重視。
東川町	22.7%	63.6%	86.3%	13.6%	**【誇り高き慎重派】** 「是非」が低く「出来れば」が突出。自分たちのスタイルや環境を壊さない「質の良い客」だけを望む選別意識がある。
愛別町	23.1%	61.5%	84.6%	15.4%	**【静穏への希求と不安】** 高速道路で通過される課題感と、高齢化による静かな生活への志向が混在。「何もないのに来て楽しめるか」という謙虚さも。
鷹栖町	23.5%	58.8%	82.3%	17.6%	**【住環境ファースト】** 否定派が最も高い。観光地というよりベッドタウン意識が強く、不特定多数の往来よりも静かな住環境を優先する傾向。

Ⅳ. 居住地別詳細分析

旭川大雪エリア１市８町は、それぞれが異なる「色」と「役割」を持っている。個々のエリアが単独で頑張るのではなく、「旭川の夜」×「美瑛の朝」×「上川のアクティビティ」×「愛別のランチ」のように、それぞれの強みを掛け合わせることで、このエリアは世界に通用する素晴らしい観光圏になる可能性に満ちている。

① 旭川市

～都市と自然をつなぐ、頼れる「ベースキャンプ」～

■特徴

エリア全体の交通・宿泊・商業の拠点です。住民は都市の利便性と、すぐそばにある豊かな自然の両方を誇りに感じており、多くの観光客を受け入れるポテンシャルを持っている。

■主な意見

夜の魅力:「夜の動物園やライトアップなど、夜も楽しめるスポットが増えれば、もっと街が輝く」

交通:「空港や各観光地へのアクセスがスムーズになれば、もっと多くの人が周遊してくれる」

冬:「冬まつりだけでなく、日常的に雪や氷を楽しめるパークがあれば、冬の強みが活きる」

■分析

「滞在型ハブ都市」への進化:「夜のエンターテインメント」や「二次交通」を充実させることで、通過点ではなく「活動拠点（ベースキャンプ）」としての価値が高まる。周辺市町へ送り出し、夜は旭川で満喫してもらう循環を作ることで、エリア全体の経済を牽引できるエリアである。

② 鷹栖町

～心安らぐ風景と、温かいコミュニティの「ヒーリング・タウン」～

■特徴

穏やかな田園風景が広がり、住民同士のつながりが温かい町。観光地化された賑わいよりも、顔の見える交流やアットホームな雰囲気を大切にしている。

■主な意見

交流:「大規模な観光よりも、イベントやマルシェを通じた温かい交流を増やしたい」

特産:「トマトジュースなどの特産品をきっかけに、町のファンを増やしたい」

■分析

「リトリート（転地療養）と交流」: 静かな環境を逆手に取り、都会の疲れを癒やす「何もしない贅沢」や、地域住民と触れ合う体験プログラムを提供することで、深い絆で結ばれたリピーター（ファン）を獲得できる可能性がある。

③ 東神楽町
～空の玄関口と花に彩られた、アクティブな「ゲートウェイ」～

■特徴

旭川空港を有し、大型商業施設も充実。都市的な機能と自然が調和しており、外からの人や新しいものを取り入れることに積極的である。

■主な意見

空港:「空港を利用する人が、フライトの前後にもっと町を楽しめる場所を作りたい」

若者:「子供や若者が集まれるおしゃれなスポットやイベントがあれば、もっと活気が出る」

■分析

「旅の始まりと終わりのエンタメ化」: 空港利用者が「ついで」ではなく「目的」として立ち寄りたくなるような、短時間で楽しめるグルメやショッピング、アクティビティを充実させることで、北海道の第一印象と最後の思い出を彩る重要な町である。

④ 当麻町
～遊びと食の魅力が詰まった、ファミリーの「ワンダーランド」～

■特徴

鍾乳洞、キャンプ場、でんすけすいかなど、分かりやすく魅力的なコンテンツが揃っている。子育て世代に優しい町づくりが進んでおり、家族連れの受け入れ体制が整っている。

■主な意見

教育:「木育(もくいく)など、子供が自然の中で学び遊べる施設をもっとアピールしたい」

食:「特産品をその場で味わえる場所を増やし、食の魅力を伝えたい」

■分析

「ファミリー・エクスペリエンス(家族体験)」の充実: 「遊ぶ」「食べる」「学ぶ」をセットにした家族向け周遊プランを強化することで、道内有数のファミリーデスティネーションとしての地位を確立できるポテンシャルをもっている。

⑤ 比布町
～雪とイチゴがもてなす、オールシーズンの「プレイフィールド」～

■特徴

世界一とも言われる雪質のスキー場と、甘いイチゴが自慢。住民のホスピタリティが高く、来訪者を楽しませるサービス精神に溢れている。

■主な意見

通年化:「冬のスキーだけでなく、夏の大雪山の絶景をもっと多くの人に見てもらいたい」

スイーツ:「イチゴを使ったお土産やスイーツ開発で、一年中比布を感じてほしい」

■分析

「絶景マウンテンリゾート」の通年化: 冬はスキー、夏は展望テラスやグランピングと、大雪山を一望できるロケーションを最大限に活かすことで、季節を問わず若者やカップルが集まるトレンディなスポットになる可能性を秘めています。

⑥ 愛別町

～美食とドライブで立ち寄りたくなる、街道の「オアシス」～

■特徴

「きのこの里」として知名度があり、高速道路のアクセスも良好です。静かな環境の中に、キラリと光る食や体験の種を持っている。

■主な意見

食:「きのこ料理をもっと手軽に、美味しく食べられる場所を増やしたい」

動線:「高速道路から降りて立ち寄りたくなるような、魅力的なスポット作りを」

■分析

「ガストロノミー(美食)ツーリズム」: 特産のきのこを現代風にアレンジした料理や、手軽なアクティビティを組み合わせ、「わざわざ高速を降りてでも食べたい・体験したい」と思わせる「目的型の中継地点」となると旭川大雪エリアの観光に深みが増すポイントとなりえる。

⑦ 上川町

～大雪山の懐に抱かれた、冒険と癒やしの「リゾート」～

■特徴

層雲峡温泉と黒岳を持つ、生粋の観光地。新しい人々や文化を受け入れることに非常にオープンで、変化を恐れず楽しむ気風がある。

■主な意見

活用:「大雪山という世界級の資源をもっと活用し、登山以外のライトな自然体験も増やしたい」

連携:「旭川からのアクセスを強化し、もっと気軽に温泉や山に来てほしい」

■分析

「アドベンチャー・ツーリズム」の聖地: 登山客だけでなく、富裕層や海外客をターゲットにした「プレミアムな自然体験(グランピングやプライベートツアー)」を強化することで、通年賑わう山岳リゾートへとさらなる飛躍ができる可能性がある。

⑧ 東川町

～丁寧な暮らしと文化が息づく、選ばれる「ライフスタイル・タウン」～

■特徴

写真の町、家具の町として独自の文化を確立している。住民は自分たちのライフスタイルに強い誇りを持っており、その価値観に共感してくれる人々との交流を望んでいる。

■主な意見

質:「町の雰囲気や文化を大切にしてくれる人に来てほしい」

空間:「歩いて回れる街並みや、ゆったり過ごせる空間づくりを進めたい」

■分析

「暮らすような旅」の提案: 単なる観光地巡りではなく、カフェ巡りや家具選び、写真撮影など、東川の日常を体験する「滞在型観光」がマッチしている。質の高いファン(関係人口)を増やすことで、町のブランドはより強固になる。

⑨ 美瑛町

～世界が憧れる景観と、農業の誇りを守る「聖地」～

■特徴

圧倒的な知名度と美しい丘の風景を有している。住民は農業景観こそが最大の資産であると深く理解しており、それを守りながら観光と共生する道を探求している。

■主な意見

共存:「農家が安心して営農できるルール作りがあれば、もっと胸を張って観光客を歓迎できる」

価値向上:「ただ景色を見るだけでなく、ガイドツアーなどで地域の物語を深く知ってほしい」

インフラ:「トイレや駐車場の整備が進めば、皆が快適に過ごせる」

■分析

「サステナブル・ツーリズム」のモデル地域: 美しい風景を守るためのルールや対価(入域料やガイドツアー)を明確にすることで、「質の高い観光地」としてブランド価値がさらに向上する。マナー啓発自体をコンテンツ化する先進的な取り組みが期待されるエリアである。

V. 職業別分析

職業	是非	出来れば	肯定計	否定計	傾向・分析
宿泊業	100%	0%	100%	0%	**【観光の最前線】** 観光客＝売上であり、生活の糧。「是非来てほしい」が 100%の唯一の職種。もっとも切実な歓迎派。
飲食業	75%	25%	100%	0%	**【実利重視】** 宿泊業同様、客数増が収益に直結。混雑の苦労よりも、経済効果を最優先に歓迎している。
農林水産業	36.4%	63.6%	100%	0%	**【観光への寛容さ】** 自由記述では「畑に入るな」等の苦言が多いが、意識調査上は全員が肯定派。直売やブランド発信への期待が上回っている。
金融・保険業	38.5%	61.5%	100%	0%	**【経済の潤滑油】** 地域経済が回ることをマクロ視点で捉えており、観光による資金循環を歓迎。リスクよりもメリット重視。
学生	33.3%	66.7%	100%	0%	**【純粋な消費者目線】** 自分たちが遊べる場所が増えることを期待。混雑や経済効果よりも「賑わい」そのものを肯定。
自営業・自由業	34.6%	61.5%	96.1%	3.9%	**【商機への感度】** 新しいビジネスチャンスとして観光を捉えている。柔軟な受け入れ姿勢が目立つ。

卸売・小売業	43.8%	50%	93.8%	6.2%	**【購買力への期待】** 「是非」の割合が比較的高い。地元客の減少を観光客の購買力で補いたいという意図が見える。
公務員	34.3%	58.2%	92.5%	7.5%	**【施策推進の立場】** 立場上、観光振興を推進する側だが、現場（窓口や土木）の苦労も知っているため「出来れば」が多い現実派。
会社員	31.3%	60%	91.3%	8.7%	**【サイレントマジョリティ】** 最大のボリュームゾーン。経済波及効果は期待しつつも、通勤渋滞などの生活への支障は避けたいバランス型。
パート・アルバイト	32.8%	55.7%	88.5%	11.5%	**【生活実感重視】** 時給への還元実感よりも、スーパーの混雑や道路事情など、日々の生活への影響を敏感に感じる層。
専業主婦（夫）	29.7%	54.1%	83.8%	16.2%	**【家庭・子供を守る視点】** 治安、交通安全、子供の遊び場の確保など、生活環境の変化に対して最も保守的・慎重な層の一つ。
医療関係	23.6%	60%	83.6%	16.4%	**【リスク管理のプロ】** 感染症リスクや救急搬送の増加など、観光による「負荷」を直接被る現場。「是非」の割合が全職種で最も低い。

建設業	22.2%	61.1%	83.3%	16.7%	**【インフラ整備の担い手】** 道路工事や除雪など、観光客増で業務負荷が増える側面も。肯定率は高いが積極性は低め。
無職	40%	33.3%	73.3%	26.0%	**【二極化の極み】** 高齢者が多いと推測。「賑わいが嬉しい」層と「静かに暮らしたい（否定派最多）」層にはっきり分かれている。

Ⅵ. 自由記述分析

① 主要キーワード

・交通（バス、JR、空港、二次交通）
・冬（雪、アクティビティ、除雪）
・食（グルメ、夜の店、キッチンカー）
・自然（カムイミンタラ、美瑛の丘）
・子供（遊び場、公園）
・イベント（フェス、音楽）
・マナー（ゴミ、農地への立ち入り）

② トピック別要約

■地域を元気にする提案

- 「夜の観光」の拡充
  「夜に行けるカフェや定食屋がない」「夜のエンタメが不足している」
- 交通インフラの改善と「二次交通」
  「空港から直行できる足がない」「車がないとどこも行けない（特に学生・高齢者）」
- 冬のコンテンツ強化
  「冬は寒くて行くところがない」
- 広域連携の強化
  旭川を拠点（ハブ）とし、周辺（美瑛、東川、富良野）へ送客する仕組みづくり。「旭川大雪エリア」として面で売る戦略

■観光に関する課題

- オーバーツーリズムとマナー違反
  キーワード: 農地立ち入り、ゴミのポイ捨て、写真撮影のマナー
  現場の声: 「生活道路が渋滞する」「農家の敷地に勝手に入られるのがストレス」
- 地元住民への還元不足
  意見: 「観光客ばかり優遇され、住民の生活（バス混雑など）が犠牲になっている」
  要望: 住民税を払っている人が恩恵を受けられる仕組み（市民割引など）や、観光税（宿泊税）によるインフラ整備
- 情報発信の弱さ
  意見: 「良い場所はあるのに知られていない」「PR が下手」
  要望: SNS（特に動画・ショート動画）の活用、ターゲットを絞ったプロモーション

Ⅶ. 総評

本調査における住民満足度は、「観光による地域活性化への期待」と「生活環境への負荷に対する懸念」が混在する、過渡期的な状況にあると思われる。また、「観光」という言葉を使いつつも、住民にとっては「日常生活の延長線上にある質の高い余暇」を求めていると考えられる。

多くの住民が観光客の増加による地域経済への波及効果やシビックプライド（地域への誇り）の向上を実感している一方で、オーバーツーリズムに起因する交通渋滞、ゴミ問題、騒音などが満足度を押し下げる主要因となっている。「観光の恩恵が住民生活に還元されているか」という実感が、今後の満足度向上の鍵を握っている。住民の生活を守る活動と、住民の観光に対する理解促進も観光誘客の推進と同時に取り組んでいく必要がある。